

愛知県地質調査業協会の活動報告

愛知県地質調査業協会 会長 大久保 卓

愛知県地質調査業協会は、今年度県内に本社を有する会社11社と県外に本社を有する会社16社で運営しています。以下に4つの主な活動について報告いたします。

1. 広報活動

一般社団法人中部地質調査業協会の依頼により、7月に愛知県内の建設事務所、港務所、農林水産事務所及び市町村へ「理事長挨拶文」「土と岩」、協会員名簿などの資料を配布する広報活動を実施しました。

2. 研修活動

令和6年度は、愛知県の出先建設事務所にて2ヶ所の出前講習会を実施しました。

・令和6年10月17日(木)

尾張建設事務所にて、県技術職員と管内市町の技術職員合計27名で実施。

・令和6年11月26日(火)

知立建設事務所にて、県技術職員と管内市町の技術職員合計26名で実施。

研修内容

「管内の地形、地質」

「地盤調査計画と調査内容の留意点」

「土質試験の重要性」等

講師：愛知県地質調査業協会 大石 雅彦氏

尚、愛知県地質調査業協会では、特に地質調査業の必要性、重要性について県職員にアピールを行いました。



写真-1 技術研修会の様子(知立建設事務所にて)

愛知県地質調査業協会では、今年度、技術研修会(地質巡検)を実施しました。

見学先：野島断層保存館、人と防災未来センター等
日 時：令和6年10月3日(木)～4日(金)

参加者：17社17名



写真-2 技術研修会(地質巡検)集合写真

3. 災害時応急支援活動

今年度は、愛知県内にての災害出動要請は5件で、会員各位の協力により出動要請に応える事が出来ました。又、令和6年9月4日(水)に防災訓練を実施し、98%強の解答を得ました。

4. 親睦を図る行事の実施

12月に協会主催の懇親ゴルフ大会を実施しました。参加者は14名。又、令和7年1月16日(木)に新年会を「木曽路瓦町店」にて実施しました。21社39名の参加にて会員同士の親睦に活気溢れる集いとなりました。

5. その他

令和6年12月5日(木)に一般社団法人全国地質調査業協会連合会主催のスキルアップ講習会が実施され、当協会におきましては、県並びに市町村に参加要請を行いました。その結果、約40名の参加を賜りました。参加いただきました県内の職員の皆様に心より感謝申し上げます。

今後も、地質調査業の必要性、重要性について、広報活動に取り組み、社会に必要とされる協会として、会員一同、一致団結して努力してまいります。

岐阜県地質調査業協会の活動報告

岐阜県地質調査業協会 会長 大橋 大輔

岐阜県支部は、令和6年度の予算として約280万円にて運営しています。役員構成は会長以下、副会長、総務委員長、広報委員長、技術委員長、防災対策委員長、取引適正化委員長の7名で、各役員の指揮の下全協会員17社が一体となって活動しております。

当支部の活動は、中部地質調査業協会ならびに愛知県支部、三重県支部、静岡県支部と連携を図りながら、下記の事業計画を定め実施しています。

- ・広報活動の実施
- ・会員の技術向上を目的とする研修活動
- ・会員相互の親睦を図る行事の実施
- ・技術の向上を図る行事の実施
- ・関連学会、関連協会への協力と提携

本年度の活動について以下にご紹介します。

- 1 通常総会、県政報告会を開催しました。
通常総会はホテルグランヴェール岐山にて会員17社の出席で開催しました。通常総会に続いて行われた県政報告会には、岐阜県議会より伊藤秀光議員、農政部より岡山農地防災対策室長、林政部より大島技術総括監、県土整備部より大橋建設技術企画監をお招きしました。
- 2 地質調査業の重要性和岐阜県支部の存在価値、認知度の向上を目指し、発注者への協会員名簿の配布・要望活動、建通新聞への広告掲載などの広報活動を実施しました
- 3 (財)岐阜県建設研究センターが実施する「県・市町村建設技術職員研修」へ講師を派遣し、地質調査の概要とその結果の利活用、県内の地形地質の特徴、構造物基礎の地質調査方法などの研修活動を通じ職員の技術向上に寄与すると共に岐阜県支部の広報活動としても大きな成果を挙げています。



市町村建設技術職員研修

- 4 岐阜大学地域交流協力会および岐阜県社会基盤研究所等の研究発表会等へ参加し、地域の社会基盤整備に貢献しています。
- 5 岐阜県と災害応援協定を締結しており、災害時における災害状況の確認、二次災害の評価提言、地質に起因する原因究明、地質調査、緊急的な応急対策の提案等の支援体制を整えて対応しています。本年度は3件の要請があり、担当各社にて対応しました。
- 6 岐阜県県土整備部主催の災害応援協定連絡会議に出席しました。関係諸団体との連携を深め、役割の再確認をしました。
- 7 防災委員会主催の中部地質調査業協会防災訓練を当支部事務所にて行いました。岐阜県支部各会員も災害時の連絡体制の確認をし、83.3%の返信率でした。

南海トラフ地震をはじめとする大規模地震への備えや、流域対策など災害に強い県土づくりには我々地質調査業者の役割は益々大きなものになっています。今後、当支部としては地域に密着した専門技術集団として、顧客の要望に応えるために協会員の更なる技術力の向上に努めていきたいと思っております。

関係各位におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

三重県地質調査業協会の活動報告

三重県地質調査業協会 会長 伊藤 重和

三重県地質調査業協会は昭和60年8月に会員数10社で設立され、39年目を迎えた現在、年度初めに1社加入したことから現在14社(本社会員4社、営業所会員10社)で運営されており、今年度は以下の事業に取り組みました。

1. 建設技術研修会

毎年、公益財団法人三重県建設技術センターが実施している建設技術研修『地質調査』に共催しています。

当協会の技術委員会から講師を2名派遣し、三重県ので地形地質と地質リスクを考慮した地質調査の計画及び調査方法の概要、また調査結果で留意すべき事項や地盤定数の考え方などについて、実務的な視点から基本的スキルの習得を図ることを目的としています。

令和6年度は6月7日に三重県総合文化センターにおいて開催し、参加人数は県関係12名、市町関係13名、その他協会員、民間会社4名で計29名の参加となりました。

2. 三重大学アクティブラーニング(地学演習)

本年は新たに三重県県土整備部とともに三重県建設産業活性化プラン2024の一環として、三重大学において「生物資源学部」の教員免許取得希望学生を対象にアクティブラーニング(集中講義 地学基礎)を開催いたしました。建設業の担い手確保のため、学生の皆さんが将来、先生になったときに建設業の魅力ややりがいを伝えてもらうことを目的した講座です。当協会の技術委員会より4名の技術員を講師として派遣し、学生の皆さんがインフラ整備のベースとなる地学の課題に対して休憩時間も忘れて真剣かつ楽しそうにグループで取り組む姿をみて、当協会側としてもおおいに勉強になりました。

令和7年2月には三重県県土整備部の職員を対象に実務に役立つことを目的とした同様の方式の講座を開催しました。



三重大学アクティブラーニングの様子

3. 三重県関係及び市町への要望活動

広報委員会の主な活動で三重県庁、企業庁、三重県建設技術センター、三重県の各関係出先事務所、市役所等に挨拶状、協会員名簿、協会機関誌「土と岩」、全地連機関紙「地質と調査」等を配布し、協会のPR活動や意見交換を行っております。7月には7つのグループ分けにより、三重県の出先や市役所の関係部署を訪問し、1月には年始を兼ねて三重県本庁を中心に訪問いたしました。

4. 情報伝達防災訓練

毎年9月頃に一般社団法人中部地質調査業協会防災委員会が中心となり、中部地方整備局管内に震度6弱の地震発生を想定した情報伝達と連携訓練を実施しています。本訓練は国土交通省中部地方整備局と一般社団法人中部地質調査業協会の災害協定に基づくものであり、伝達率は93.8%、応援可能人員は土質技術者17名、地質技術者13名、地すべり技術者8名、ボーリングマシン16台という結果となり、今後も発災時に迅速に対応できるよう体制を整備してまいります。

5. 三重県からの災害支援協力要請への対応

三重県地質調査業協会では平成19年3月に三重県県土整備部との間で締結された『地震・津波・風水害等の緊急時における協定』により三重県内で地震・津波・風水害等の災害が発生した際、地盤等の被災状況調査を実施し復旧工法について技術的指導及び今後の対応方針についての助言を行っています。

令和6年度は4月に県民からの連絡により、道路路側構造物の既設補強土壁工の基礎部崩壊と擁壁端部ののり面崩壊への対応、また6月中旬には集中豪雨による伊勢市内の法面崩壊への対応をいたしました。

いずれも協会員が迅速に現地踏査、地質調査および技術的助言を実施いたしました。

三重県地質調査業協会は今後もインフラのインフラである地形地質に精通した集団として、地質リスクマネジメントを念頭にインフラ整備や地質災害の対応に尽力し、社会から必要とされる協会として努力してまいります。

以上、簡単ではございますが、当協会の令和6年度活動報告とさせていただきます。

静岡県地質調査業協会の活動報告

静岡県地質調査業協会 会長 松浦 好樹

静岡県協会は、現在15社全て県内業者で構成されております。令和6年度の年間スケジュールで大きなイベントとしては以下の通り行われました。

7月

地盤技術講習会

8月

静岡県交通基盤部との意見交換会

10月

大井川ジオサイトツアー

11月

国土交通省県内7事務所 所長 副所長との意見交換会

ジオフォーラム 静岡in2024

土木の日イベント

下田市 静岡市で参加

ジオフォーラム2024 in 静岡

主 催：(一社)静岡県地質調査業協会

後 援：(一社)中部地質調査業協会

(一社)建設業団体連合会

協 賛：静岡県道路協会

全国治水砂防協会静岡支部

日 時：令和6年11月8日

会 場：静銀ユーフォニア(静岡市葵区追手町1-10)

参加者：175名



土木の日イベント



下田土木の日のイベントの様子

地盤技術講習会

主 催：(一社)静岡県地質調査業協会

後 援：(一社)中部地質調査業協会

日 時：令和6年7月5日(金)13:30~17:00

会 場：ペガサート6F(静岡市葵区御幸町3-21)

参加者：127名

■13:40~15:10

能登半島地震の被害状況とその特徴

金沢工業大学 特任教授 川村 國夫

■15:20~16:20

能登半島地震の液状化による地盤の流動と特性と対策の視点~内灘町の現地調査からの知見~

大阪大学 名誉教授 常田 賢一

■16:20~17:20

フリーディスカッション

大井川上流ジオサイトツアー

日 時：令和6年10月12日~13日

静岡市北部の南アルプスの地質を構成する四万十帯は地質学的な意味や建設工学的にも興味の多いフィールドである。実務においても多くの現場で関係する地質タイプであるため、教科書の知識だけではなく実際のダイナミックさを経験し身につくフィールドワークを目的に実施しました。技術者同士の親睦を深めることができ大変有意義なツアーとなりました。

